

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900083		
法人名	株式会社 健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホーム こもれび つつじ		
所在地	静岡県磐田市二之宮東21-4		
自己評価作成日	平成30年1月17日	評価結果市町村受理日	平成30年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2296900083-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は明るく広く、フロア、廊下、居室などゆったりしています。1日の流れは概ね決めてあり、メリハリのある生活を送っています。認知予防に力を入れており、毎日工夫を凝らして行っています。車椅子の方も、歩行器を使用し歩行したり、手すりを持った訓練をえています。毎月、行事担当職員が決まっており2か月前位から計画を立て、初詣、運動会や鍋、カレー作り、年賀状を書いたり、外出では、イチゴ狩りや蕎麦屋に行ったり、桜、つつじ、紫陽花、コスモスを観に出掛け季節感を感じたり、夏祭り、地域の屋台見学など楽しみのある生活が送って頂けるように考えています。管理者が看護師であり、協力医の先生と連携がとれており、看取

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

堅固な建物なことから災害時には百名の受入が磐田市から割り当てられ、また駅前という利便性から中学生の職場体験は浜松市からもあります。例えば、運営推進会議で「職員の名前がわかるようにして欲しい」と挙がれば速やかに名前を付した写真掲示をおこない、「誠実で」「早い」をモットーにしており、本年1月からは定年も65歳まで延長させて60代を迎える職員に喜ばれています。正月の書初めや俳句では其々の達筆さが披露され、いちご狩りや見附天神への遠足には職員が下調べを繰り返す等有用感の満ちた暮らしから、家族が此処で本人が造った達磨(クラフト)を墓石に模したというエピソードも生まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 2296900083					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年はグループホームの目標を掲げると計画を立て、施設内に掲示した。①明るく笑顔で挨拶をする。②常に向上心を持って、昨日より今日自己成長しようとしてた。挨拶はいつもできており、資格取得に向け勉強する職員もおり計画は実践できたが浸透したかは疑問です	前回の外部評価で目標に掲げた通り、理念は「目標」という形に落とし込み、実践に繋がっています。特に「向上心～自己成長」については、介護福祉士と介護支援専門員へ2名ずつ受験し、他にも2名が実践者研修に通っていて、職員の意欲の高さが伝わります。	挨拶をはじめとする目標は職員の意識に反映しており、達成に向かっていていることは覗えますが、振り返りシートや相互チェック等客観的に測れるツールを用意することを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りには、沢山の家族に参加してもらった。秋祭りには、屋台が施設内に入り、子供達の踊りを観たり、市民マラソンでは、施設の前で応援した。地域のボランティアにも慰問してもらっている。中学生の福祉実習も受け入れた。	見附天神では社務所前、小國神社では本殿前での駐車許可がもらえたり、元町珈琲では席の確保がスムーズだったり、何かある度に地域の温かな支援を受けることができます。その一方で、清掃活動などの自治活動に関わっていません。	寿司、ケーキ、和菓子の職人を招いたり、花屋さんのフラワーアレンジメント等、商店街の皆さんとの協働や相互支援が進むことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2296900083-00&PrefCd=22&VersionCd=022	認知症とその家族が全国をマラソンして走るラン伴で磐田の中継所として利用者と一緒に応援した。防災では、福祉避難所として協力している。地域の飲食店や施設には事前に連絡を取り、受け入れてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回、民生委員2名、市介護保険課1名、包括支援センター1名、家族1名の方に出席頂き開催している。職員体制、苦情に対するの取組、医療体制、1日の流れなど、毎回内容を変えて、報告をしている。質問についてはその場で答えている。	事業所としては特段ゴールを設けてはませんが、運営推進会議があることで「事業所の実情を知ってもらえている」充足感があり、地域包括支援センター職員からは「風邪もひいていないのにマスクはいかがなものか(表情がみえたほうがいい)」と貴重な意見も得ています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市や包括の方に出席してもらい、グループホームの実情を報告している。毎月市には、入居状況を報告し、事業者連絡会に出席している。毎月市から、介護相談員が訪問し、入居者から話を聞いている。	運営推進会議には市役所介護保険課、地域包括支援センター職員が並んでくださり、また月1回磐田市が開催する事業者連絡会に事業所も欠かさず出席して連携に努めています。他にも毎月1回介護相談員の来訪があり、相談員事業に係る会議にも参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束U字言を掲示し、施設全体で取り組んでいる。身体拘束に関する説明書、経過観察記録を用意した。事故のありそうな利用者は、カンファレンスを行い職員間で統一を図っている。転倒のあった利用者には、家族に説明しセンサーを設置したり、見守りを強化している	ゆったりとしたスペースで、ユニット間も自由に行き来できていて閉塞感はないものの、戸外に出るにはエレベーター操作が必要なことで職員の配慮が求められる設計です。エレベーター付近に歩いていく様子を察知して、早め早めの対応に努め、戸外に出たいときは付添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設では、身体拘束について勉強会を開き、職員が周知徹底できるようにしている。利用者が入浴時は、観察し、内出血や傷に注意している。又、職員から報告をうけ確認している。介護記録には残している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度は勉強したことはあるが、理解は不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、本人と家族が施設を見学し、契約を交わす時も十分な説明を行い、理解・納得の上で契約を交わしている。サービス提供加算を変更する時は、全家族に説明を行い、承諾書を頂いた後に変更した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、職員から家族に近況を報告している。面会、介護計画変更時家族から意見や要望を聞いている。家族から出た要望は、カンファレンスを行い、解決案を出し家族に報告している。職員の名前がわからないに対して名前と写真をフロアに貼りだした。	面会時間はインフルエンザが心配される期間は短縮していますが、一言声をかけてもらえれば受け入れていて、夫妻で入居の二人には娘が父親の好みの新聞持参で毎日訪れています。事業所の「こもれび通信」を遠くに住む次男に長男が送っている家庭もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段から職員の意見に耳を傾けている。年2回、職員は自己評価表、悩みを記入し、提出している。その表をみながら管理者は職員と個人面談を行い、本人の要望や意見を聞き、反映している。事故報告書や毎日のミーティングで改善案を聞いている。	夕方にはカンファレンス的な申し送りが毎日、職員会議が月1回、事故の検討会議やサービス担当者会議と、協議の場は比較的多くあり、職員は個々に管理者へ直接質問や確認をしてきており、風通しの良い状況にあります。	風通しが良いことから、現状維持が叶うよう本部による職員アンケートの実施もあると、なお良いと思います。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数の応じて給与の上乗せがあり、資格手当を支給している。今年から定年を60歳から65歳に延ばした。時間外勤務がほぼない。個人面接の時、本人の良い所を話している。休み希望を聞いて全員希望通りにとれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では、研修を毎月行っている。認知症実践者研修を2名受講し終了した。介護福祉士取得に向け2名勉強している。法人より実務者研修の費用の半分の補助がでている。ケアマネの試験に2名受験し、現在実務研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の機関での研修に参加し、サービスの向上を目指している。市の事業者連絡会に出席している。6月から他のグループホームが同一法人になったので、少しずつ職員が研修に行き学んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、本人の困っている事、不安な事、要望、入居前の様子を聞き、支援に結びつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族の困っている事、不安な事、要望を聞き、コミュニケーションを大切に何でも言ってもらえる信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聞き取り、その意向に沿えるような介護を心掛けている。サービスを導入する時、管理者と職員と担当者会議を行い、計画書に基づいて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活のなかで洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、食事の前の挨拶など本人の出来る事で役割をもって生活を送っている。毎月のレクでは、カレーや稲荷ずしやケーキを作りなど入居者、職員一緒に楽しく作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすい雰囲気を作り、面会には沢山来てもらっている。面会時、家族との時間を大切にもらえるように居室にて過ごしてもらっている。毎月1か月の様子がわかるように、こもれび通信を発行している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時、天候で挨拶し、今後も面会に来て頂けるように心がけている。家族、兄弟、友人、近所の方など面会に来ている。行事にも家族に参加してもらっている。自宅に帰ったり、お祭りを見学している。家族や友人に手紙、年賀状を出している。外出、外泊、面会は自由	家族は孫も訪れるほか、教え子をはじめ以前の勤務先の知人の来訪もあります。職員が「笑顔で出迎え」「すぐお茶、椅子をだす」ことが身につけていてウエルカムな環境を整えています。りんご100%ジュース等、これまで続けていたものを家族に届けてもらっている人も何人かいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置については、気の合う利用者同士、状態の同じ利用者同士を隣席にしたり、トラブルがある時は席の配置を変えている。又、自由に席を移動し談笑する様子がある。話の少ない利用者には職員が声掛けを多くしている。全員が参加出来るレクを行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した時はとてもよくやって頂いたと家族から感謝された。その後は、家族と連絡をとっていないが、噂でよくやってくれた、グループホームで作ったダルマを家族が気に入り墓にそのダルマを作ったと聞いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活の様子を聞いている。入居後は、入浴時や職員と1体1となった時、本人がもらず話から、思いを聞きだしている。定期的に介護計画書を作成前に本人と家族の要望を聞き、カンファレンスをし、本人に合った生活支援が出来るようにしている。	以前は居室担当制を敷いたこともありましたが思い入れが強くなる傾向があった為、現在は「皆で全員を」という形式に戻しています。本人から普段こぼれた言葉は介護記録で残し、介護計画書の見直しの都度(6ヶ月毎)アセスメントにも反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの起床、就寝時間、職業、趣味、好きな事をアセスメントし、生活に取り入れている。家族からも情報収集している。教師には、食事前に挨拶をしてもらい、縫い物が得意な方には雑巾やほころびを縫ってもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設には、1日の流れはあるが、一人ひとりの病気や体力に合わせて臥床、離床している。夜間は不安になり、何度も起きてくる利用者がいるが、安心できるまでその都度職員は寄り添い話を聞きいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を聞き取り、ケアマネと職員とカンファレンスを行い、意見を出し合い、介護計画を立て、ケアに繋げている。モニタリングも本人と家族に話を聞いている。	各ユニットの計画作成担当者(内1名は介護支援専門員)が申し送りを通じて2表のサービス内容を伝達していて、職員がそれを忠実に実行することに因って、計画作成担当者が再び申し送りで過不足を伝えてと、日々カンファレンス、モニタリングが叶っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、日々の様子やケアの実践を記録し、職員間で情報を共有している。申し送りは、朝、夕2回行い、報告し、気づいた点は見直しをしている。さらに、変わった事は全職員に共有できるように連絡ノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調が悪い時は、頻回にバイタル測定をし対応している。眼科や整形外科の受診に付き添う事がある。家族の要望で、毎日ヨーグルトやヤクルトを飲んだり、3日おきにビタミン剤を飲んだり、酸素ボンベは毎日残量を確認し交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イチゴ狩りは、定休日の日に営業してもらい、グループホームの利用者のみでイチゴ狩りが出来た。神社の初詣、紅葉狩りには、近くの駐車場に止め、飲食店では、車椅子が出入りしやすい場所に配慮してもらった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に協力医に変えてもらい、月1回定期的に往診してもらっている。協力医は休日、夜間24時間対応できる体制を確保している。体調が悪い時は、連絡をし対応してもらっている。職員は全面的に協力医を信頼している。	24時間、土日でも対応くださる協力医が月1回訪問診療に来所しています。心配な症状があれば回数を増やしたり、看取りには毎日として親身な関わりをもってくださり、また随時「診療計画書」も発信して、家族・事業所と厚い信頼を築いている頼もしい協力医です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はいつもと違うと感じた時は、24時間看護師に報告し、支持を仰いでいる。細かな事でも看護師に報告し、相談している。職場内に看護師がいるので浣腸など医療行為がいつでもできている。看護師は協力医と連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は訪問し、本人の様子を聞いてくる。又、情報提供をしている。退院時は退院カンファレンスに参加し医師、相談員、看護師、理学療法士から情報収集している。病院に、毎月空き情報を報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は、利用者、家族の思い、生き方を尊重し、家族と協力医と事業所は話し合いを持ち、本人、家族の希望と事業所で出来る合意の所で支援していく。協力医は突発的な病状の変化にも24時間対応できる体制をとってくれている。	契約時に「看取りをおこなう事業所である」ことを家族には伝え、延命治療の有無等も含み書面合意もあります。開設から数年の内に4名の看取りをおこなっていますが、熱心な協力医にも支えられ無事お見送りできており、職員の心配や不安への聞き取りも実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所する時、全員に延命処置は望むか、望まないか、決めていないを選んでもらっている。看護師が職員に応急手当やADEやり方を研修で教えている。病院で行った救急研修にも参加した。急変時は、施設長(看護師)に連絡し指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回磐田消防署立ち合いで利用者が参加し地震と風水害の避難訓練を行った。又、グループホームの職員による災害伝言を夜間やった。伝言は途中で切れたり、内容が変わってしまうことがあった。磐田市の福祉避難所となっている。	以前消防署の指導にあった「タオル、ハンカチで口と鼻を覆ってください」といった助言も取り入れて、毎回消防署職員立ち合いも下、3施設合同で年2回建物全体での訓練を実施しています。職員間での伝達訓練は、伝え漏れ等の不備があり課題を残しています。	次年度は職員の伝達改善とともに、災害伝言ダイヤルの訓練を家族を交えておこなえると、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり性格も違い、抱えている不安も違うので、本人に寄り添った言葉かけを心掛けている。排泄面では、プライドを傷つけないように、トイレ介助に付く人や付かない人と分けて、慎重に対応している。	介護職とのプロ意識の前に自らのパーソナリティが出てしまう職員もいますが、そういった場面を見過ごさず管理者に他職員から情報が届いており、注意克己や面談につなげることができ、利用者本位の暮らしとなるよう図られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ希望に添えられるように心がけているが、時間が決められているものもあり、できないものもある。無理強いする事のないように、本人の意志も取り入れ入浴や臥床している。希望を聞いて行事担当が外出場所を決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れがあり、皆で一緒にレクや運動をする時があるが、それ以外の時間は本人のペースで休憩したり、テレビを見たり自由に過ごしている。その方のペースで生活出来るように寝たり、起きたり個々の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は、髭の手入れをし、女性は、手が上がらない人には、髪を束ねる支援をしたり、眉を書いたりしている。本人の意志で服を選んでいる人もおり、毎日お化粧している人もいる。洗顔や服の着脱の介助を支援している。毎月美容師が訪問している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者には、テーブル拭き、給仕を手伝ってもらっている。利用者全員でカレー、稲荷寿司、おやつを作ったり、季節の行事食(おせち料理、年越しそばなど)、握りずしを握って食べたり、魚の解体ショー見たり、蕎麦屋、コーヒー店に出掛ける事もある。	1階にある厨房で衛生的な調理が用意されていますが、本人に意向があれば配膳や簡単な洗いや物を手伝ってもらうこともあります。お誕生会ではケーキと決めず、本人の好きなものや皆で作りたいものを堪能しており、厨房でもブリの解体ショー等イベント食にもチャレンジしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	腎臓食、カロリー制限食、刻み食、ソフト食、トロミを付けたり対応している。毎食とおやつ摂取量、水分を把握し、食事の様子を観察し、体調管理をしている。食事が食べれない時、高カロリードリンクを購入してもらい飲んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食が一人ひとり口腔ケアを行っている。出来ない方には一部介助、全介助を行っている。出来る方にも声かけをしている。入れ歯は洗浄液につけている。訪問歯科で治療している方もいる。歯科衛生士による勉強会を行った。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に行った時間を記録して、どのくらいの間隔でトイレに行くかわかるようにしている。便意、尿意が訴えない方は、時間で誘導したり、様子からトイレに連れていったり、立位が困難な方で毎日3回トイレに座らせている方もいる。なるべく布パンツを使用している。	チェック表をつけ、個々の状態や癖を職員が掴んだ対応をおこなってはいますが、維持する人、できなくなった人、認知症は進んだのに排泄状況は向上した人と、相関関係が不明で成果はまちまちです。職員は家族の費用負担経験に絡み、パットの検討もおこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、歩行訓練やラジオ体操を行い、腸の蠕動運動を促している。利用者は、それぞれ排便習慣があるので、回数、排便時間、性状など理解して、その人に合った介助をしている。水分摂取は一日5回とっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね曜日、時間は決めてあるが、本人の体調や都合により変更したり、拒否のある時は無理強いせず、曜日を変更している。又、入るのを拒否する人に対しては、入りたくするような言葉がけや入るタイミングを合わせている。	週2回の入浴を目安とし、これ以上「入りたい」としても実現が難しいスケジュール、職員配置です。現状「入りたい」人はなく、拒否への声掛けと日の変更には工夫が必要なおことが多く、ゆず等のかわり湯や一番風呂の要望に応え、リフト付シャワーキャリーも備えて安全を図っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備(居室の温度、湿度、灯り等)安眠できるようにしている。寒い日は、エアコンを付けたり、乾燥時は加湿器を付けている。利用者の体調に合わせて昼寝したり、自分で就寝時間を決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の情報を入れ、いつでも目的、副作用、用法、用量が見られるようにしている。薬の変更がある時は、職員全員にわかるように連絡ノートに書いている。個人の検温表の欄に薬の開始時期を記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、趣味など活かせるように、生活の中に取り入れている。生活の中で洗濯干しや畳み、縫い物など役割をもってもらっている。月に1度、外出、外食し気分転換を図っている。家族が面会時嗜好品を持ってきて食べている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者に希望を聞いて、イチャコ祭り、花見、紅葉狩りなど季節を感じられるようにしている。バスを利用した時は家族も一緒に公園に行った。食事は蕎麦屋、コーヒー店など外食した。家族と自宅に帰ったり、買い物、温泉に行ったりして気分転換を図っている方もいる。	「平日には市のシャトルバスが利用できるみたい」と職員が耳にして「竜洋しおさい公園」への遠足が実現できたこともあり、職員は常日頃から外出支援の情報収集を気にかけていて、こまめなドライブ外出が叶っています。中での歩行訓練はありますが、戸外散歩はおこなえていません。	交通量のことを考慮すれば散歩にはリスクも伴うため、ドライブ外出をもう少し増やして、現地での散策が月1回以上おこなえたら、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者よりお金を預かり、外出時に好きな物を買ったり食べたりしている。施設内でおやつを作ったりしている。月末に集計して、家族に報告している。本人がお金を持って安心できるなら、少し持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望で携帯電話を持ち込み電話をしている方がいる。時々手紙を出している方もいる。利用者全員が家族や知人に年賀状を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア、廊下、居室、トイレなど明るく、ゆったりとした空間です。自分の居室がわかりやすいように好きな花や物を目印にしている。壁画は利用者が制作した物を季節に合わせて飾っている。施設の玄関には、いつも花があり、ロビーには大きな絵画が飾ってある。	広々としたスペースをとり、ユニット間の往来も円滑なため、自由度の高さが感じられます。また以前ピアノを弾いていた人にはグランドピアノ、生き物が好きな人には鳥というように居室には本人と符号する表札を掲げ、トイレの表示もわかりやすいマークとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席は気の合う利用者同士配慮している。トラブルになった場合は席や居室を変える事もある。居室で過ごしたい方は居室で過ごす方もいるが、時々声掛けしている。ソファで談笑する方もいる。つつじとくすのきの利用者も自由に行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、姿見、マッサージ機などがあり、思いでの家族の写真、品物が飾ってある。自分で作った布団で寝ている方や畳みを入れている方もいる。	洗面台とベット、カーテンが予め備わってはいませんが、其々その人らしい持ち込みが見られます。テレビやデッキの他、数度しか使うことはなかったとはいえ電話機が置かれていたり、立ち上がりの難が進んだことから高さの異なる椅子が増えている居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全廊下には手すりが付いており、トイレにはトイレの絵を掲示しわかりやすくしている。手すりを利用し、下肢のトレーニングを実施している。くすのきとつつじの広いフロアと廊下を利用して、歩行練習をしている。テーブルは角のない楕円形をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900083		
法人名	株式会社 健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホーム こもれび くすのき		
所在地	静岡県磐田市二之宮東21-4		
自己評価作成日	平成30年1月17日	評価結果市町村受理日	平成30年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2296900083-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は明るく広く、フロア、廊下、居室などゆったりしています。1日の流れは概ね決めてあり、メリハリのある生活を送っています。認知予防に力を入れており、毎日工夫を凝らして行っています。車椅子の方も、歩行器を使用し歩行したり、手すりを持った訓練をえています。毎月、行事担当職員が決まっており2か月前位から計画を立て、初詣、運動会や鍋、カレー作り、年賀状を書いたり、外出では、イチゴ狩りや蕎麦屋に行ったり、桜、つつじ、紫陽花、コスモスを観に出掛け季節感を感じたり、夏祭り、地域の屋台見学など楽しみのある生活が送って頂けるように考えています。管理者が看護師であり、協力医の先生と連携がとれており、看取

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

堅固な建物なことから災害時には百名の受入が磐田市から割り当てられ、また駅前という利便性から中学生の職場体験は浜松市からもあります。例えば、運営推進会議で「職員の名前がわかるようにして欲しい」と挙がれば速やかに名前を付した写真掲示をおこない、「誠実で」「早い」をモットーにしており、本年1月からは定年も65歳まで延長させて60代を迎える職員に喜ばれています。正月の書初めや俳句では其々の達筆さが披露され、いちご狩りや見附天神への遠足には職員が下調べを繰り返す等有用感の満ちた暮らしから、家族が此処で本人が造った達磨(クラフト)を墓石に模したというエピソードも生まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念 2296900083					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年はグループホームの目標を掲げると計画を立て、施設内に掲示した。①明るく笑顔で挨拶をする。②常に向上心を持って、昨日より今日自己成長しましょうと立てた。挨拶はいつもできており、資格取得に向け勉強する職員もおり計画は実践できたが浸透したかは疑問です		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りには、沢山の家族に参加してもらった。秋祭りには、屋台が施設内に入り、子供達の踊りを観たり、市民マラソンでは、施設の前で応援した。地域のボランティアにも慰問してもらっている。中学生の福祉実習も受け入れた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2296900083-00&PrefCd=22&VersionCd=022	夏祭りには、沢山の家族に参加してもらった。秋祭りには、屋台が施設内に入り、子供達の踊りを観たり、市民マラソンでは、施設の前で応援した。地域のボランティアにも慰問してもらっている。中学生の福祉実習も受け入れた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回、、民生委員2名、市介護保険課1名、包括支援センター1名、家族1名の方に出席頂き開催している。職員体制、苦情に対するの取組、医療体制、1日の流れなど、毎回内容を変えて、報告をしている。質問についてはその場で答えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市や包括の方に出席してもらい、グループホームの実情を報告している。毎月市には、入居状況を報告し、事業者連絡会に出席している。毎月市から、介護相談員が訪問し、入居者から話を聞いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を掲げ、施設全体で取り組んでいる。身体拘束に関する説明書、経過観察記録を用意した。事故のありそうな利用者は、カンファレンスを行い職員間で統一を図っている。転倒のあった利用者には、家族に説明しセンサーを設置したり、見守りを強化している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設では、身体拘束について勉強会を開き、職員が周知徹底できるようにしている。利用者が入浴時は、観察し、内出血や傷に注意している。又、職員から報告をうけ確認している。介護記録には残している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度は勉強したことはあるが、理解は不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、本人と家族が施設を見学し、契約を交わす時も十分な説明を行い、理解・納得の上で契約を交わしている。サービス提供加算を変更する時は、全家族に説明を行い、承諾書を頂いた後に変更した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、職員から家族に近況を報告している。面会、介護計画変更時家族から意見や要望を聞いている。家族から出た要望は、カンファレンスを行い、解決案を出し家族に報告している。職員の名前がわからないに対して名前と写真をフロアに貼りだした。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段から職員の意見に耳を傾けている。年2回、職員は自己評価表、悩みを記入し、提出している。その表をみながら管理者は職員と個人面談を行い、本人の要望や意見を聞き、反映している。事故報告書や毎日のミーティングで改善案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数の応じて給与の上乗せがあり、資格手当を支給している。今年から定年を60歳から65歳に延ばした。時間外勤務がほぼない。個人面接の時、本人の良い所を話している。休み希望を聞いて全員希望通りにとれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では、研修を毎月行っている。認知症実践者研修を2名受講し終了した。介護福祉士取得に向け2名勉強している。法人より実務者研修の費用の半分の補助がでている。ケアマネの試験に2名受験し、現在実務研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の機関での研修に参加し、サービスの向上を目指している。市の事業者連絡会に出席している。6月から他のグループホームが同一法人になったので、少しずつ職員が研修に行き学んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、本人の困っている事、不安な事、要望、入居前の様子を聞き、支援に結びつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族の困っている事、不安な事、要望を聞き、コミュニケーションを大切に何でも言ってもらえる信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聞き取り、その意向に沿えるような介護を心掛けている。サービスを導入する時、管理者と職員と担当者会議を行い、計画書に基づいて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活のなかで洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、食事の前の挨拶など本人の出来る事で役割をもって生活を送っている。毎月のレクでは、カレーや稲荷ずしやケーキを作りなど入居者、職員一緒に楽しく作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすい雰囲気を作り、面会には沢山来てもらっている。面会時、家族との時間を大切にもらえるように居室にて過ごしてもらっている。毎月1か月の様子がわかるように、こもれび通信を発行している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時、笑顔で挨拶し、今後も面会に来て頂けるように心がけている。家族、兄弟、友人、近所の方など面会に来ている。行事にも家族に参加してもらっている。自宅に帰ったり、お祭りを見学している。家族や友人に手紙、年賀状を出している。外出、外泊、面会は自由		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置については、気の合う利用者同士、状態の同じ利用者同士を隣席にしたり、トラブルがある時は席の配置を変えている。又、自由に席を移動し談笑する様子がある。話の少ない利用者には職員が声掛けを多くしている。全員が参加出来るレクを行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した時はとてもよくやって頂いたと家族から感謝された。その後は、家族と連絡をとっていないが、噂でよくやってくれた、グループホームで作ったダルマを家族が気に入り墓にそのダルマを作ったと聞いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活の様子を聞いている。入居後は、入浴時や職員と1体1となった時、本人がもらず話から、思いを聞きだしている。定期的に介護計画書を作成前に本人と家族の要望を聞き、カンファレンスをし、本人に合った生活支援が出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの起床、就寝時間、職業、趣味、好きな事をアセスメントし、生活に取り入れている。家族からも情報収集している。教師には、食事前に挨拶をしてもらい、縫い物が得意な方には雑巾やほころびを縫ってもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設には、1日の流れはあるが、一人ひとりの病気や体力に合わせて臥床、離床している。夜間は不安になり、何度も起きてくる利用者がいるが、安心できるまでその都度職員は寄り添い話を聞きいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を聞き取り、ケアマネと職員とカンファレンスを行い、意見を出し合い、介護計画書を立て、ケアに繋げている。モニタリングも本人と家族に話を聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、日々の様子やケアの実践を記録し、職員間で情報を共有している。申し送りは、朝、夕2回行い、報告し、気づいた点は見直しをしている。さらに、変わった事は全職員に共有できるように連絡ノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調が悪い時は、頻回にバイタル測定をし対応している。眼科や整形外科の受診に付き添う事がある。家族の要望で、毎日ヨーグルトやヤクルトを飲んだり、3日おきにビタミン剤を飲んだり、酸素ボンベは毎日残量を確認し交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イチゴ狩りは、定休日の日に営業してもらい、グループホームの利用者のみでイチゴ狩りが出来た。神社の初詣、紅葉狩りには、近くの駐車場に止め、飲食店では、車椅子が出入りしやすい場所に配慮してもらった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に協力医に変えてもらい、月1回定期的に往診してもらっている。協力医は休日、夜間24時間対応できる体制を確保している。体調が悪い時は、連絡をし対応してもらっている。職員は全面的に協力医を信頼している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はいつもと違うと感じた時は、24時間看護師に報告し、支持を仰いでいる。細かな事でも看護師に報告し、相談している。職場内に看護師がいるので浣腸など医療行為がいつでもできている。看護師は協力医と連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は訪問し、本人の様子を聞いてくる。又、情報提供をしている。退院時は退院カンファレンスに参加し医師、相談員、看護師、理学療法士から情報収集している。病院に、毎月空き情報を報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は、利用者、家族の思い、生き方を尊重し、家族と協力医と事業所は話し合いを持ち、本人、家族の希望と事業所で出来る合意の所で支援していく。協力医は突発的な病状の変化にも24時間対応できる体制をとってくれている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所する時、全員に延命処置は望むか、望まないか、決めていないを選んでもらっている。看護師が職員に応急手当やADEやり方を研修で教えている。病院で行った救急研修にも参加した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回磐田消防署立ち合いで利用者が参加し地震と風水害の避難訓練を行った。又、グループホームの職員による災害伝言を夜間やった。伝言は途中で切れたり、内容が変わってしまうことがあった。磐田市の福祉避難所となっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり性格も違い、抱えている不安も違うので、本人に寄り添った言葉かけを心掛けている。排泄面では、プライドを傷つけないように、トイレ介助に付く人や付かない人と分けて、慎重に対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ希望に添えられるように心がけているが、時間が決められているものもあり、できないものもある。無理強いする事のないように、本人の意志も取り入れ入浴や臥床している。希望を聞いて行事担当が外出場所を決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れがあり、皆で一緒にレクや運動をする時があるが、それ以外の時間は本人のペースで休憩したり、テレビを見たり自由に過ごしている。その方のペースで生活出来るように寝たり、起きたり個々の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は、髭の手入れをし、女性は、手が上がらない人には、髪を束ねる支援をしたり、眉を書いたりしている。本人の意志で服を選んでいる人もおり、毎日お化粧している人もいる。洗顔や服の着脱の介助を支援している。毎月美容師が訪問している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者には、テーブル拭き、給仕を手伝ってもらっている。利用者全員でカレー、稲荷寿司、おやつを作ったり、季節の行事食(おせち料理、年越しそばなど)、握りずしを握って食べたり、魚の解体ショー見たり、蕎麦屋、コーヒー店に出掛ける事もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	腎臓食、カロリー制限食、刻み食、ソフト食、トロミを付けたり対応している。毎食とおやつ摂取量、水分を把握し、食事の様子を観察し、体調管理をしている。食事が食べれない時、高カロリードリンクを購入してもらい飲んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食が一人ひとり口腔ケアを行っている。出来ない方には一部介助、全介助を行っている。出来る方にも声かけをしている。入れ歯は洗浄液につけている。訪問歯科で治療している方もいる。歯科衛生士による勉強会を行った。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に行った時間を記録して、どのくらいの間隔でトイレに行くかわかるようにしている。便意、尿意が訴えない方は、時間で誘導したり、様子からトイレに連れていったり、立位が困難な方で毎日3回トイレに座らせている方もいる。なるべく布パンツを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、歩行訓練やラジオ体操を行い、腸の蠕動運動を促している。利用者は、それぞれ排便習慣があるので、回数、排便時間、性状など理解して、その人に合った介助をしている。水分摂取は一日5回とっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね曜日、時間は決めてあるが、本人の体調や都合により変更したり、拒否のある時は無理強いせず、曜日を変更している。又、入るのを拒否する人に対しては、入りたくなるような言葉がけや入るタイミングを合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備(居室の温度、湿度、灯り等)安眠できるようにしている。寒い日は、エアコンを付けたり、乾燥時は加湿器を付けている。利用者の体調に合わせて昼寝したり、自分で就寝時間を決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の情報を入れ、いつでも目的、副作用、用法、用量が見られるようにしている。薬の変更がある時は、職員全員にわかるように連絡ノートに書いている。個人の検温表の欄に薬の開始時期を記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、趣味など活かせるように、生活の中に取り入れている。生活の中で洗濯干しや畳み、縫い物など役割をもってもらっている。月に1度、外出、外食し気分転換を図っている。面会時家族に嗜好品を持ってきて食べている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者に希望を聞いて、イチゴ狩り、花見、紅葉狩りなど季節を感じられるようにしている。バスを利用した時は家族も一緒に公園に行った。食事は蕎麦屋、コーヒー店など外食した。家族と自宅に帰ったり、買い物、温泉に行ったりして気分転換を図っている方もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者よりお金を預かり、外出時に好きな物を買ったり食べたりしている。施設内でおやつを作ったりしている。月末に集計して、家族に報告している。本人がお金を持って安心できるなら、少し持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望で携帯電話を持ち込み電話をしている方がいる。時々手紙を出している方もいる。利用者全員が家族や知人に年賀状を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア、廊下、居室、トイレなど明るく、ゆとりとした空間です。自分の居室がわかりやすいように好きな花や物を目印にしている。壁画は利用者が制作した物を季節に合わせて飾っている。施設の玄関には、いつも花があり、ロビーには大きな絵画が飾ってある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席は気の合う利用者同士配慮している。トラブルになった場合は席や居室を変える事もある。居室で過ごしたい方は居室で過ごす方もいるが、時々声掛けしている。ソファで談笑する方もいる。つつじとくすのきの利用者も自由に行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、姿見、マッサージ機などがあり、思いでの家族の写真、品物が飾ってある。自分で作った布団で寝ている方や畳みを入れている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全廊下には手すりが付いており、トイレにはトイレの絵を掲示しわかりやすくしている。手すりを利用し、下肢のトレーニングを実施している。くすのきとつつじの広いフロアと廊下を利用して、歩行練習をしている。テーブルは角のない楕円形をしている。		